

鈴木梅太郎の代表的発明(ビタミンB₁、ビタミンA)

人間が健康な生命活動を維持するのに欠かせない栄養素「ビタミン」。鈴木梅太郎博士は、当時原因不明の病である脚気を防止する有効な成分が米糠（こめぬか）に含まれていることに着目し、世界で初めて米糠から「アベリ酸 = オリザニン」（後のビタミンB₁）を発見し、その分離に成功しました。

その後、理化学研究所において愛弟子の高橋克己博士とともに、タラの肝油からビタミンAの分離・抽出に成功、“理研ビタミン”の名で商品化されました。鈴木博士は、理研において優秀な研究者を育て、日本のビタミン研究の基礎を確立しました。



アベリ酸 = オリザニン（ビタミンB₁）
（写真提供：三共株式会社）



ビン詰めで売られていた“理研ビタミン”（ビタミンA）
（写真提供：理化学研究所）